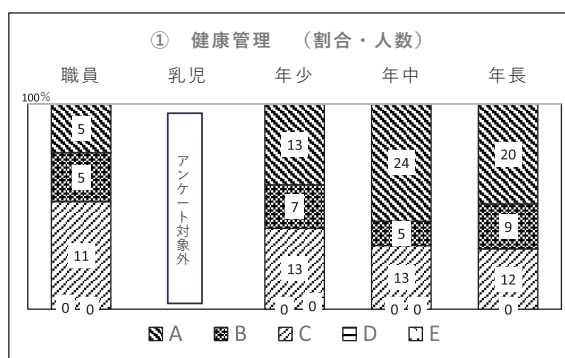


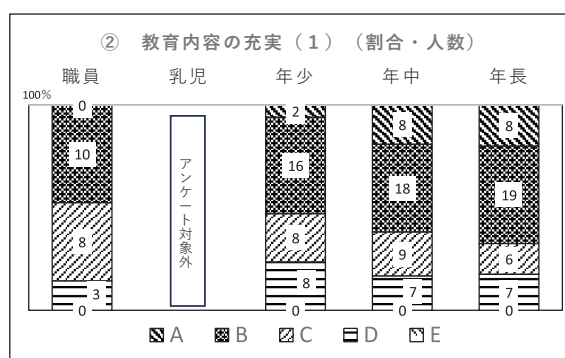
令和5年度 学校評価（10月中間評価）結果

呉あそか幼稚園

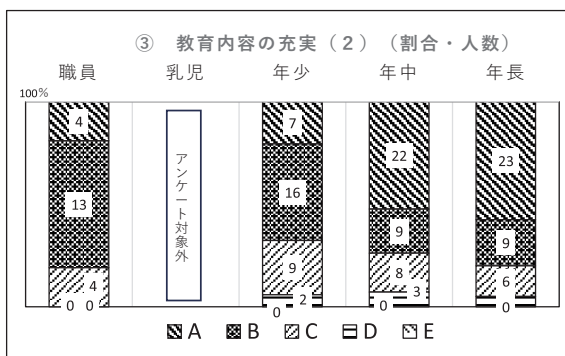
① 健康管理 R5.10月	
A	子どもは、自分から手洗い、うがいをしている
B	子どもは、指先、指の間まで洗っている
C	子どもは、うながされると、うがい、手洗いをする
D	子どもは、手洗いの仕方がわかっている
E	あてはまらない・わからない



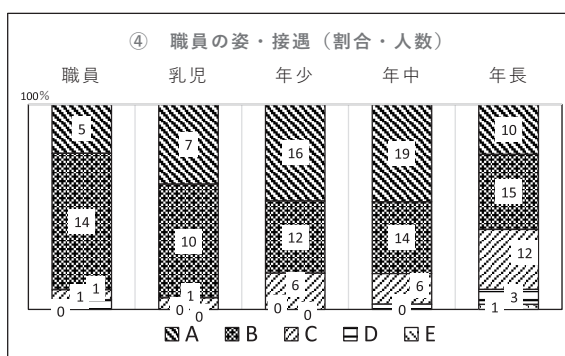
② 教育内容の充実(1) R5.10月	
A	子どもは、相手に応じた挨拶をするようになってきた
B	子どもは、自分から挨拶するようになってきた
C	子どもは、不安なく挨拶するようになってきた
D	子どもは、少しずつ挨拶できるようになってきた
E	あてはまらない・わからない



③ 教育内容の充実(2) R5.10月	
A	子どもは、やってみようが増えている
B	子どもは、できたことを喜び、続けて頑張ろうとしている
C	子どもは、話したいことが増え、興味がひろがっている
D	子どもは、ほめてもらい、喜ぶことが増えている
E	あてはまらない・わからない



④ 職員の姿と接遇 R5.10月	
A	職員は、保護者の思いを受け止めている
B	保護者と職員で、子どもの様子を伝え合い、共有している
C	職員は、笑顔で礼儀正しく、話しやすい
D	職員は、丁寧な対応をしている
E	あてはまらない・わからない



1 結果の考察と改善策

① 健康管理（手洗い・うがいの定着）

子どもたちの手洗い・うがいは、おおむね定着してきたと多くの保護者はみているが、職員は子どもが自分から手洗い・うがいをするものの定着は十分ではないと思っている。

今後の取組と改善策

今後も継続して手洗い・うがいに取り組む。

特に外から帰って来た時、食事の前、トイレに行った後の手洗い等、必ず声をかけ習慣化するように努める。

② 教育内容の充実①（あいさつ、思いを伝える）

あいさつ、思いを伝えることについては、保護者も職員も十分でないともみている。

今後の取組と改善策

あいさつは、人間関係づくりの基盤となることを指導者が意識し、今後も指導していく。また自分の思いを伝えることは、自己表現や自分の意思を表示するために重要なことととらえ、スキル取得をめざした取り組みを展開する。（自分がやりたいこと、遊びに入れて欲しいことの表現方法、やって欲しくないことの意味表示など）

③ 教育内容の充実②（自信をもち挑戦する、探究心）

自信をもち挑戦する意欲、もっと知りたい、やりたいという探究心については、保護者も職員も肯定的にみている。興味が広がり、続けて頑張る子どもがいる。

今後の取組と改善策

今後も、保護者も職員も子どもができたことを共に喜び、子どもが話したいことをしっかり聞くことを続ける。うまくいかないことがあっても、励ましたり無理強いしたりしないことを心がける。

④ 職員の姿と接遇（笑顔と言葉づかい、保護者に寄り添った連携）

職員の姿については、保護者はおおむね肯定的である。保護者と職員で子どもの様子を伝え合い共有し、また職員は礼儀正しく話しやすいと思われる。

今後の取組と改善策

今後も、保護者と職員が子どもの様子を伝え合い、できたこと、成長したことを共有していく。職員は保護者の思いをしっかりと受け止めながら日々の指導に生かしていく。

同時に、家庭で取り組んで欲しいことも保護者に伝え、子どもの成長に生かしていく。

2 学校評価方法の改善について

本園の学校評価内容（項目）は、これまでの様式・内容を改め、令和5年度から新たに作成したものである。

これは、「幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブック」（公益社団法人 全国幼児教育研究協会）を参考にして評価指標等を新規作成したものである。

ガイドブックによると、評価指標とは、まず重点目標を掲げ、その目標達成のための取組指標と成果指標（評価基準）を設定するが、この度の中間評価では、職員から自己評価しにくかったという声があった。指標が具体的すぎて例えば2か3かの判断が難しかった等である。

本年度はこのままの内容で、2月に第2回目の評価を行う予定だが、次年度は取組指標と成果指標を見直す必要がある。

<案>

- (1) 取組指標は削除する。（指導方法・内容は、クラスだより等で保護者に伝える）
- (2) 成果指標はめざす姿を明記し、評価は4択にする。

<例>

○評価項目「あいさつができる」「思いが言える、伝える」の成果指標の場合

（現行）

子どもは、相手に応じた挨拶をするようになってきた	4
子どもは、自分から挨拶するようになってきた	3
子どもは、不安なく挨拶するようになってきた	2
子どもは、少しずつ挨拶できるようになってきた	1

（改善案）次の4択とする

○子どもは、自分から挨拶している。挨拶されると挨拶を返している。
①とても思う ②少し思う ③あまり思わない ④思わない
○自分の気持ちや考えを友達や職員に伝えている。
①とても思う ②少し思う ③あまり思わない ④思わない

○保護者、職員は①～④の4択で評価し、集計結果を割合（％）で表示する。

○肯定的評価（とても思う、少し思う）の割合70％以上をめざす。

3 評価委員からの助言・意見（学校評価委員会）

（1）評価結果（保護者アンケート、職員自己評価）について

- 本年度から学校評価についての内容及び項目等を新規に策定したとのことであるが、この度の評価結果については、保護者・職員共に一部回答しにくい面があったと推察される。このため、次年度に向けてアンケート内容の一部見直しを進める必要があると思われる。
- 手洗い・うがい・あいさつが、年少→年中→年長と学年が上がるにつれて評価の値も上がっているのよいと思う。
- 職員の姿と接遇について、ある学年は「職員は保護者の思いを受け止めている」の項目が他の学年より低い。その理由を分析し今後の取組に生かして欲しい。
- 第1回学校評価委員会での意見が反映され、「職員と保護者は」という方策が増え丸となって取り組んでいる様子が分かってよかった。

（2）結果の考察と改善策について

- 集計された評価結果からは、保護者・職員共にほぼ同様のスタンスに立ちながら子どもたちに関わり、見守っていることが伺える。
- 手洗い・うがい・あいさつについては、子どもがやる前に声かけしてしまうところもあるので、「自分からあいさつしている。自分から手洗い等をしている」というのは判断しづらいところがある。
- 保護者と職員が子どもの様子を伝え合う機会が少ないので、機会が増えるよう互いに時間を作り、保護者に寄り添った連携に努めて欲しい。
- 「職員」「保護者」「職員と保護者」の3点からの達成度や評価が、一目瞭然になればよい。
- 今回の結果を保護者や地域に示す場合には、今回の数値はまだ的確なものではないことを補足しておいた方がよい。（数値が高いことを良しとしてしまいがちだが、今回は「1」でも好評価だったため、数値は評価にあてはまらないため）

（3）学校評価方法の改善について

- アンケート内容の一部見直しを進めるとともに、何を元に評価をしていくのかについても明確にしておく必要がある。
- 評価方法の改善について記されていたように、4択で選ぶ方がわかりやすいし、「（達成率）70%以上をめざす」等の目標もかかげやすくて良いと思う。
- 本年度2回目のアンケートでは、各項目ごとに1つを選ぶのではなく、複数選ぶことも考えられる。
- 改善案（めざす姿を明確にして評価は4択）は、すっきりして選択しやすくてよい。
- 今回のアンケートにあった「方策」は評価数値の差はなく、全て素晴らしい内容である。「それぞれの方策を数値で評価」ならば、求める数値が出て、手ごたえのある結果になったと思う。